

会場前で抗議行動を行う参加者ら



「ダイ・イン」で抗議

武器見本市に宗教者や市民

国際的な武器見本市

「DSEI JAPAN」が21日、千葉県千葉市の幕張メッセで始まり、平和をつくり出す宗教者ネットや市民団体ら約350人が会場前で抗議のアピール行動を行った。

同展は23日までの日程で国内外の企業・団体約420社が出展。後援には防衛省、経済産業省、

警察庁、宇宙航空研究開

発機構(JAXA)なども名を連ねている。日本では2019年に初開催され、2年ぶりの開催となる。

抗議した市民たちは、「武器で稼ぐな」「誰の子どもも殺させない」「死の商人はお断り」と声をあげた。また海外での反戦行動から始まった集団で地面に横たわる「ダイ・

英国や米国、イスラエ

ルなどの軍需企業も出展しており、イスラエルからの攻撃が続くパレスチナ・ガザ地区の平和を訴える人々も参加。

ガザ地区出身のハニ・シナムさんは、日本で同展が開催されることについて「どうしてこんなことができるのか。日本人は戦争の意味を知っているはずだ。二度と

「ダイ・イン」を行うなどして、同展に抗議の姿勢を示した。

繰り返し「毎年8月に祈りを捧げるあなたたちが、今、イスラエルの兵器企業を歓迎し、軍事代表団をもてなし、戦争犯罪人と握手している。会場内の企業は恥を知りなさい、あなたたちは防衛請負企業ではない。死の商人です」と批判した。日本山妙法寺の武田隆雄氏は「武器見本市は、戦争展です。宗教者、特に仏教は、不殺生戒の教えをいただいていますから、反対の意思を示していかなければいけない」と話した。